

農業経済学特論 I (2単位)

担当者氏名 北田紀久雄

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

農業生産を担当する農業経営体は、私経済的利益を追求する持続的組織体であるが、同時に限られた生産資源を保全・活用し生産力を維持・向上させる社会的責務を負っている。本講義では、農業経営体の管理・運営・組織に関する原理や問題点及び実践的手法に加え、わが国の農業生産が環境負荷を抑えて持続的発展を図るために必要不可欠な優れた経営体の育成と発展のメカニズムについて理論的かつ実証的に学んでゆく。本講義では、農業経営体に関して基礎的な理解を深め、農業経営調査ができる能力の醸成を目指す。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

<u>農業経営体</u>	<u>経営規模</u>	<u>集約度</u>	<u>経営目標</u>
<u>複合経営</u>	<u>農業法人</u>	<u>経営計画</u>	<u>経営診断</u>

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	授業のねらいと内容	・ 授業の進め方・評価、参考文献の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に紹介した参考文献や配布プリントの参照しておくこと。予習に毎回1時間を割くこと。 ・ 授業終了後には授業内容を踏まえて、参考文献やプリントを参照して理解を深めること。復習に毎回1時間を割くこと。 ・ 不明な点は授業中に積極的に質問すること。
2	農業経営の課題	・ 日本農業における農業経営の現状と課題	
3	農業経営の特徴	・ 農家経済の構造と特徴、家族経営体の性格	
4	経営目標	・ 農業経営の経営形態から経営目標を探る	
5	利益と生産力	・ 経営費と生産費、利益と生産力の関係	
6	費用概念の吟味	・ 費用の技術的性格と経営集約度	
7	生産の理論	・ 生産関数の適用とその最適水準	
8	規模と集約度	・ 経営規模と集約度の関係と、主要指標	
9	経営と環境	・ 経営環境の吟味と、環境保全型農業	
10	経営形態	・ 単一経営と複合経営の比較と、その特質	
11	経営の立地	・ 特化係数と地域集中度係数、経営立地	
12	経営の分析と診断	・ 農業経営診断の方法とその主要指標	
13	農業の法人化	・ 農業生産法人の仕組みと法人化の意義	
14	農業経営の展望	・ 日本農業の農業経営のあり方を議論	
15	総括	・ 授業の取りまとめ、重要事項の整理	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

とくになし

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

農業経営学講義/金沢夏樹/養賢堂(1982)、農と食の現段階と展望/熊谷宏他監修/東京農業大学出版会(2004)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業中における理解度・質疑(60点)、課題提出(40点)などを総合的に判断して評価する。

◆オフィスアワー

毎週月曜日の午前中、研究室で質問を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

教員から教わるのではなく、自ら問題意識をもって授業に臨むこと。
受講生の要望などを考慮して、講義内容は適宜変更したい。
